



わかやま

No.5 1

和歌山県精神保健福祉センター 2012年 5月

障害福祉課 課長 宮腰 奏子

「県障害福祉課長に就任して」

4月に和歌山県障害福祉課長に着任した宮腰奏子です。

この3月までは厚生労働省健康局結核感染症課でB型肝炎訴訟を担当していました。その前には、雇用均等・児童家庭局家庭福祉課に3年ほど、その前には障害保健福祉部に3年ほど在籍していました。また、個人的なことですが、学生時代、発達障害の子どもたちへの支援や、肢体不自由の方の介護などの活動も大阪で行っていたことがあり、福祉分野は非常に縁が深く、今回、障害福祉分野を担当することができたことはうれしくもあり、身の引き締まる思いでもあります。

今回は、制度改正の動きなどを簡単にご紹介したいと思います。

精神障害者の方への支援としては、特に地域移行が重要な課題となっています。

このため、2012年度から、退院支援及びその後の生活支援の充実を目指すため、入院中から、住居の確保や新生活の準備等を行う「地域移行支援」と、地域生活している方に対し24時間の連絡相談等のサポートを行う「地域定着支援」が障害者自立支援法において個別給付化されることとなりました。

また、和歌山県では昨年10月から実施している「精神障害者アウトリーチ推進事業」において、未治療の人や医療中断している人などに対し、医師、精神保健福祉士、看護師、作業療法士、臨床心理士等の専門職がチームを組んで、本人や家族に対して訪問支援を行っています。パラメディカルスタッフも関与する新たな生活面への支援サポートのモデルとして、今後の取り組みが期待されています。

さらに、2013年度からの新たな医療計画の項目に精神疾患が加えられ、位置づけが明確化されました。今後とも障害福祉計画と医療計画とで計画的な地域移行などの支援を進めることとなります。

このほか、現在、進められている制度の見直しに関しては、「障害者総合支援法案」の審議が行われているほか、厚生労働省では、精神障害者に対する強制入院、保護者の責務規定の見直し等も含めた在り方の検討が進められており、これまでの精神科医療の歴史を大きく転換する契機となることも考えられます。

障害施策の分野は近年、制度改正の動きも多く、また、新しい取り組みが次々に進められています。制度改正が多いと、その対応に追われがちではありますが、特に、地域移行などの取り組みは、地道な現場での活動が大きな力になっていきます。制度改正の動きを注視していくとともに、事業の定着に取り組むことも重要な課題だと思っています。

このほか、紙面の関係上、詳細な説明ができませんが、障害福祉課では、自殺対策や認知症対策など精神保健に関連する幅広い分野を担当しています。

いずれも県民の生活に密接に関わる分野であり、誰もが支援したりされたりする立場になる可能性のあるものばかりです。誰もが自分の問題として考えられるよう、普及・啓発もあわせて進めていきたいと思っています。

和歌山の様子も含め、まだまだ勉強しなければならないことばかりですが、まずは、現場の声など様々な方にお話をお伺いすべくお願いすることが多いかと思います。施策の充実・推進に役立てたいと思いますので、よろしくお願ひします。



- P1 県障害福祉課長に就任して
- P2 シリーズセンター長だより◎/いのち・つなぐ・講演会
- P3 平成24年度 精神保健福祉センターの相談案内
- P4 活動紹介「青年のつどい フリースペース」
- P5 和歌山メンタルヘルスニュース/研修報告
- P6 はーとふるネットワーク「県立こころの医療センター 岩倉 まりさん」

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎(073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/050301/>



シリーズ センター長たより ⑨

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

地元アーティストのパワー

AKB48の大ブレイクにあやかって各地にご当地アイドルユニットが誕生しています。とうとう和歌山でも「ZagaDa」というアイドルグループが活動中ですが、みなさんをご存じでしょうか？（ちなみに、ユニットの名前は「ザ」が「ダ」になる和歌山弁の特徴から付けられています）。私自身、これまであまりご縁がなかったのですが、最近は精神保健センターの活動でも地元アーティストの方々との関わりが生まれてきました。芸能人や著名人の発信力については前回も触れましたが、和歌山弁を駆使する地元アーティストはより一層身近で親しみを感じることができるところがすばらしいと思っています。

昨年11月のこのころのフェスティバルでは、小西博之さん、古家学さん、アロエルトのお二人とで「いのちのうた」を熱唱していただきました。そして、今年の2月5日には紀美野町にあるりら創造芸術高等専修学校の生徒さんによる演劇「NIGELLA」が上演されました。これは自殺防止の啓発の一環として和歌山県からの委託を受けて制作された舞台ですが、若者の視点から生きる



Shinoさん

ことのすばらしさを力強く発信したすばらしい作品でした。また、3月13日に和歌山駅で行った街頭啓発では、いつもご協力いただいているNPO法人心のSOSサポートネットのつながりで、和歌山のアイドルShinoさんも一緒に啓発グッズを配ってくれました。

さて、次はどんなアーティストとコラボできるか、今からちょっと楽しみです。

和歌山駅での街頭啓発活動(3月13日)

お知らせ

和歌山県精神保健福祉協会総会及び講演会の開催について

平成24年度定期総会及び講演会を次のとおり開催します。

日時 : 7月18日(水)
場所 : 和歌山ビッグ愛201会議室
内容 : <総会> 13:15 (受付:13:00~)
<講演会> 14:00~15:30

テーマ 『精神障害のある方々の地域生活支援』(仮題)
講師 日本福祉大学研究フェロー 野中 猛先生

講師プロフィール

1976年弘前大学医学部卒業。病院勤務を経て、1988年より埼玉県庁に勤務し、1990年より埼玉県立精神保健総合センターに所属、社会復帰や、地域精神保健に関わる。

2001年より日本福祉大学福祉学部保健福祉学科教授。

2005年には英国ケンブリッジ地域NHSトラストに留学、現在は日本福祉大学研究フェローとして活躍。

主な著書「精神障害リハビリテーション論リカバリーへの道」 岩崎学術出版2006
「障害学にもとづくソーシャルワーク」 監訳 金剛出版2010 他 多数

平成24年度 精神保健福祉センター相談案内

●自死遺族相談（要予約）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方を対象に、死別による悲しみから回復することをお手伝いする相談をおこなっています。

対 象：自死（自殺）により大切な方を亡くされた方
（家族・知人・友人）
日 時：第2月曜日 16：00～20：00
第4月曜日 13：00～17：00

※都合により、日程が変更される場合があります。

○わかちあいの会和歌山「うめの花」（要申込）

自死（自殺）により大切な人を亡くされた方どうしが、悲しみや苦しみを安心して語ることができるわかちあいの会を開催しています。

対 象：自死（自殺）により大切な方をなくされた方
（家族・知人・友人）
日 程： 7月20日（金）
9月16日（日）
11月23日（金）
1月20日（日）
3月23日（土）
時 間：13：30～15：30 ※7月20日（金）のみ19：00～21：00
一時保育有り（1歳～小学校2年生までのお子さんをお預かりします。事前にお申し込みください）



●思春期・青年期 特定窓口相談（要予約）

専門の医師による思春期、青年期の相談窓口を設置しております。
思春期、青年期に特有の悩みや精神疾患、不登校やひきこもり等の相談に応じます。

対 象：思春期、青年期の問題を抱えるご本人やご家族（県内に在住の方）
申込み：精神保健福祉センターに電話にてご連絡ください。
073-424-1713（いっぽライン） 受付時間：平日9:00～17:45

○青年のつどい フリースペース

対人関係やひきこもりの問題を持つ方を対象に、自由に過ごせる憩いの場を設けています。

対 象：和歌山県在住の概ね16歳～40歳までの方
日 時：毎週火曜日 13：00～16：00
申 込：精神保健福祉センターにご連絡ください

※スタッフが個別相談に応じます



●ひきこもり家族のつどい

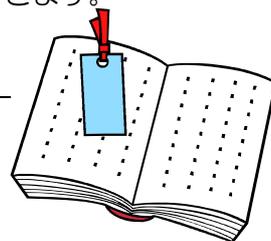
ひきこもりの問題を抱える家族どうしが、気持ちのわかちあいや情報交換のできる場をもうけています。

対 象：ひきこもりの問題を抱えた家族
日 時：毎月第3水曜日 13：30～15：30
申 込：不要

青年のつどい フリースペース

精神保健福祉センターでは、「家以外で自由に過ごせる場が欲しい」「他人とコミュニケーションをとりたい」「生活を充実させたい」・・・こうした思いを持つ方を対象に、“青年のつどい・フリースペース”を開催しています。いつでもお気軽にご参加ください。

- ① 活動内容は基本的に自由です。参加者は思い思いに時間を過ごすことができます。
- ② 利用時間内であれば、好きなときに参加して、好きなときに帰ることができます。
- ③ 見学だけでも可能です。



対 象：和歌山県在住の概ね16歳から40歳までの方
ひきこもりの状態にある方
人とかかわることにまだまだ抵抗のある方

開 催 日：毎週火曜日 13:00～16:00 ※都合により、予定が変更になる場合があります。

場 所：精神保健福祉センター内 プレイルーム

参加申込：まず精神保健福祉センターにご連絡ください。事前にスタッフが個別相談に応じます。

連 絡 先：和歌山県精神保健福祉センター
TEL：073-435-5194 FAX：073-435-5193

トランプやUNO、カード麻雀などの室内ゲームや音楽鑑賞、映画鑑賞（DVD）、塗り絵、卓球、読書。森林浴などを自由に楽しむことができます。今後もゲームトーナメントやマナー講座、公園散歩、文化体験（書道や絵画、切り絵、ビーズづくり等）、スポーツなど様々な企画があります。活動内容は参加者の皆さんと話し合いながら決めていきます。

☆ 青年のつどい フリースペースの様子 ☆



< 開催報告 >

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

精神保健福祉従事者専門研修
「摂食障害を知る」

～当事者、援助者、社会学者の視点から～

3月3日（土）に、看護師や精神保健福祉士、臨床心理士等、精神保健福祉に関する支援者を対象に、ビッグ愛にて開催しました。ご自身も摂食障害の経験をお持ちの野村佳絵子先生（京都橘大学非常勤講師：社会学者）に、「摂食障害とは何か」について、社会的視点を含む様々な観点からご講義していただきました。「“摂食障害”を本人が自分の言語として語れるようになることが大切」「“摂食障害”はその人の一部。支援者は症状にとらわれすぎないで」等のお話のあと、参加者全員で自助グループの体験を共有するワークもおこないました。



日高・御坊圏域“ひきこもり”学習会
「若者を地域につなぐ支援」

3月6日（火）に御坊保健所にて若者、“ひきこもり”支援に関わる者を対象に開催しました。南紀若者サポートステーション訪問支援員の南芳樹氏と精神保健福祉センター小野所長が、「“ひきこもり”という言葉や概念にとらわれず、“その人”のしんどさや挫折体験に耳を傾けること、寄り添おうとする姿勢を持つことが大切」「“ひきこもり”支援から、地域全体の支援ネットワーク技術の向上、支援の土壌の広がりが期待される」「若者支援を考える上でのキーワードは、地域での“つながり”“役割”“居場所”」等と話をしました。

自死遺族支援研修
「死別の悲しみに寄りそう」

3月9日（金）に、田辺市民総合センターにて東京福祉大学心理学部教授の鈴木康明先生を講師に開催し、精神保健福祉に携わる支援者11名が受講しました。鈴木先生は東日本大震災におけるご自身の被災者支援活動についても触れ、「大切な人を亡くした体験はひとりひとり違う。世間一般や支援者側の価値観に当てはめてその人の悲しみを見ようとせず、想像力を働かせて悲しみの渦中にある人が必要

とすることを考えて動くことが大切」等と話されました。

“ひきこもり”家族教室

3月5日（月）及び3月14日（水）に、那賀総合庁舎にて、ひきこもりの問題をお持ちのご家族の方を対象に開催しました。ひきこもった経験を持つ方に、「自分なりの歩み～これまでとこれから」というテーマでご自身の体験を話していただいたり、「“ひきこもり”にとらわれなくて」というテーマで、精神保健福祉センター小野所長が話をしました。参加された方からは、「当事者の方が今でもしんどいなか、言葉にして伝えてくれたことに感動して涙が出ました」「従来の“自立”を目指すのではなく、大切なのは“共生”という話が印象に残った」等の感想が寄せられました。

アルコール依存症学習会

2月20日（月）に御坊保健所、23日（木）にプラザホープ（和歌山市）、3月14日（水）に橋本保健所にて、それぞれ「アルコール依存症と生活障害（講師：リカバリハウスいちご所長 佐古恵利子氏）」、「アルコール依存症と家族（新阿武山クリニックソーシャルワーカー 西川京子氏）」、「アルコール依存症の理解と治療について（新生会病院院長 和氣浩三氏）」をテーマに開催しました。

うつ病学習会

2月28日（火）及び、3月7日（水）にビッグ愛（和歌山市）、3月6日（火）にビッグユウ（田辺市）において、「うつ病の理解と治療について」「家族の対応について」を主なテーマに、精神科医の松本幸男氏や小川正明氏、臨床心理士の上野和久氏を講師にお招きして開催しました。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介
今回は、和歌山県立こころの医療センター 岩倉 まりさんです。



はーとふるネットワーク



ー精神科病院の作業療法士とはどのようなお仕事ですか？

入院患者様、外来患者様に対して、日常生活、退院、就労への援助などアプローチするところは沢山あると思いますが、患者様一人ひとりその人らしさを大切にしながら一緒に悩み寄り添いながら支援できる仕事だと思っています。

ー作業療法士になられたきっかけは？

高校生の時、作業療法士の公開講座に参加したことがきっかけです。リハビリという言葉をよく耳にされ始めた頃で、その中でも“作業”を通じて関わるということに興味・関心を持ちました。

ーこの仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？

職種の違うたくさんの人に出会えることや、患者様の笑顔に触れた時にほっこりした気分になります！

ー仕事で苦勞されることはどのようなことですか？

患者様がどのようなことに困っているのか、それに対して自分は何が出来るのか…悩むことは多いです。また患者様を支援する中で臨機応変に対応した

り、色々な発想をしたりなど未熟な部分がたくさんあるので経験し成長していきたいです。

ー気分転換はどのようにされていますか？

家族と過ごす時間が一番の気分転換です！他にはショッピングやドライブなんかも気分転換できますね！

ー県立こころの医療センターのPRを短くどうぞ。

患者様に寄り添い素敵な支援をしています！明るく気さくな職員さんがたくさんいる病院です！

ー今後の抱負を教えてください。

患者様に何が出来るか、何を必要としているか、患者様やご家族にも寄り添った支援が出来るよう努力したいです。

ー次の方のご紹介とその方へのメッセージをお願いします。

日高総合病院、作業療法士の服部さん！ふたつ返事で引き受けていただきありがとうございます！よろしく申し上げます！

研修会等のお知らせ

精神保健福祉関連 新任者研修

対象：精神保健福祉業務に従事して概ね5年以内の担当者（医療機関関係職員を含む）

第1日目 6月5日（火）

場所：和歌山ビッグ愛5階 501・502会議室

10:00～10:30 受付

10:30～12:30 「精神疾患と精神障害の理解」

精神保健福祉センター 所長 小野 善郎

13:30～15:30 「精神障害者と人権」

財団法人 信貴山病院ハートランドしぎさん

看護部 副部長 大谷 須美子 氏

第2回目 6月6日（水）

場所：和歌山ビッグ愛2階 201会議室

9:30～10:00 受付

10:00～12:00 「障害福祉サービスについて」

障害福祉課 中川 浩二 氏

13:00～15:00 「相談の受け方」

和歌山心療ワイルド 所長 上野 和久



「自殺対策企画研修」

対象：市町村・保健所職員

第1回 6月8日 13:30～16:00

場所：和歌山ビッグ愛6階 603会議室

① 自殺に関する地域診断について

茨城県精神保健福祉センター 所長 佐藤 茂仁 氏

② 和歌山県自殺対策意識調査の実施について

県精神保健福祉センター

第2回 6月14日 13:30～16:00

場所：田辺市文化交流センター たなべる

① 市町村の取り組みについて

～中学生から学ぶゲートキーパーの素因（心得）（仮）～

有田市保健センター 坂部 美紀 氏

～白浜町における自殺対策（仮）～

白浜町民生課 清宮 乙香 氏

コーディネーター 精神保健福祉センター 所長 小野 善郎

② 和歌山県自殺対策意識調査の実施について

県精神保健福祉センター



編集後記

5月21日金環日食の朝は、我が家の路地でも近所の人たちが、観察用グラスを手に一斉に空を見上げました。今世紀最大といわれる壮大な天体ショーにしばし歓声があがり、皆、感嘆しきりでした。大昔の人たちもこうして太陽を見上げたのでしょうか、よもや太陽を隠しているのが月だとは想像もしなかったことだろうと思いました。